

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

④社会人、留学生、他分野・他大学からの多様な大学院生に対応した基礎学力補完教育の実施やカリキュラムの提供

●横浜国立大学国際社会科学部研究科経済学専攻、グローバル経済専攻「経済・工学連携による金融プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

工学系科目を含む副専攻プログラムの開設と理工系学生にも受験可能な入試により、数理系科目が得意な学生を引きつける体制を作った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

金融工学一般ではなく、経済学と関連が強く、実務界で必要とされると同時に実証的な金融分析に対象を絞り、そこで金融や数理経済に必要な数学、能力を調査し、受講する学生や科目提供の教員に負担のない範囲でコースの設計を行った。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

従来の入試では入学できなかった層の学生で優秀な人材を多数獲得した。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

E. 学習・研究環境の改善

②国内外の学会発表、実習等に対する経済的支援の充実

●横浜国立大学国際社会科学研究科経済学専攻、グローバル経済専攻

「経済・工学連携による金融プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

金融データベース(データストリーム)の購入とそれを運用する専門スタッフの配置を行い、通常の研究費では手当てできない実証研究の領域拡大をおこなった。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

データベースの使用方法は習得に時間を要するので、ハードルが高く、従来の研究プロジェクトでは学生に十分な効果がなかったが、今回のプロジェクトでは専門の担当者を貼り付けることにより、学生に十分な利用指導を提供し、乏しい経験と知識でも研究に利用しやすい環境を整えた。ソフトやハードの導入をおこなっても、それを使いこなすノウハウをもったアシスタントがいないとほとんど効果を出さないことがしばしばあったが、今回のプロジェクトでは、従来の経費では雇用できなかったノウハウと能力を持った人を雇用し、十分な成果を上げるように考慮した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

国際比較のデータや金融の高頻度データなどの大量のデータを用いる実証分析、日本の大学院レベルの研究では非常に困難であったが、今回のプロジェクトのもとで、国内学会や国際学会(USA)において大学院生による高水準の研究成果の発表が可能となり、本研究科の研究水準と国際的な評価を向上させたといつてよい。